

2022 年度（令和 4 年度）

シラバス

理学療法学科 昼間部

履正社国際医療スポーツ専門学校

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	運動生理学		担当教員	渡邊 有実		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	運動生理学は、運動処方やトレーニングを実施することにより、現象と仕組みを学習する学問である。 本講義では、運動による呼吸、循環、代謝の変化を中心に生理学の基礎と応用について学習する。					
達成目標	運動生理学に興味をもち、運動処方やトレーニングにおける身体の適応を生理学的に理解し、説明することができる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	運動生理学の化学的基礎1(総論)	事前:1年次の復習 事後:講義の復習		1	
	2	運動生理学の化学的基礎2(総論)	事前:1年次の復習 事後:講義の復習		1	
	3	骨格筋の構造と働き	事前:1年次の復習 事後:講義の復習		1	
	4	運動と神経	事前:1年次の復習 事後:講義の復習		1	
	5	運動と神経2	事前:前回講義の復習 事後:講義の復習		1	
	6	運動と呼吸	事前:1年次の復習 事後:講義の復習		1	
	7	運動と呼吸2	事前:前回講義の復習 事後:講義の復習		1	
	8	運動と循環	事前:1年次の復習 事後:講義の復習		1	
	9	運動と循環2	事前:前回講義の復習 事後:講義の復習		1	
	10	運動と内分泌	事前:1年次の復習 事後:講義の復習		1	
	11	運動と体液・血液	事前:1年次の復習 事後:講義の復習		1	
	12	外的要因とスポーツ	事前:1年次の復習 事後:講義の復習		1	
	13	内的要因とスポーツ	事前:1年次の復習 事後:講義の復習		1	
	14	運動における性差 スポーツ選手における体組成管理	事前:1年次の復習 事後:講義の復習		1	
	15	まとめ	事前:1年次の復習 事後:講義の復習		1	
授業方法	座学により実施。毎時配布する資料により授業を進行する。					
評価方法	終期試験					
テキスト	なし。適宜、必要に応じて資料を配布する。					
参考文献	1から学ぶスポーツ生理学 第2版 運動生理学 -生理学の基礎から疾病予防まで-					
履修上の 注意事項	基礎生理学や生物学の知識を復習した上で参加するようにしてください。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	運動学Ⅱ		担当教員	清水 浩之		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床					
授業概要	前半では、体幹から足関節までの骨と関節運動、筋活動について学ぶ。 後半では、歩行周期、筋活動、時間的空間的指標について学ぶ。					
達成目標	単元ごとに、運動学的、運動力学的事実を理解し、説明が出来る。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	体軸骨格 骨(1) 頸椎 胸椎	事後:講義内容の復習		1	
	2	体軸骨格 骨(2) 腰椎 仙腸関節	事後:講義内容の復習		1	
	3	体軸骨格 筋(1) 頸椎 胸椎	事後:講義内容の復習		1	
	4	体軸骨格 筋(2) 腰椎	事後:講義内容の復習		1	
	5	股関節 骨と関節運動	事後:講義内容の復習		1	
	6	股関節 筋機能	事後:講義内容の復習		1	
	7	膝関節 骨と関節運動	事後:講義内容の復習		1	
	8	膝関節 筋機能	事後:講義内容の復習		1	
	9	足関節と足部 骨と関節運動	事後:講義内容の復習		1	
	10	足関節と足部 筋機能	事後:講義内容の復習		1	
	11	歩行 空間的、時間的指標	事後:講義内容の復習		1	
	12	歩行 周期	事後:講義内容の復習		2	
	13	歩行 各関節運動	事後:講義内容の復習		1	
	14	歩行 筋活動	事後:講義内容の復習		1	
	15	運動学総括	事後:講義内容の復習		1	
授業方法	講義					
評価方法	定期試験、授業態度					
テキスト	嶋田智明/監訳 『筋骨格系のキネシオロジー』 医歯薬出版株式会社					
参考文献						
履修上の 注意事項	分からないことはそのままにせずに、必ず理解に努めること。 復習を欠かさないこと。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	病理学		担当教員	田村 泰久		
			実務経験	○		
実務内容	医療系企業勤務(薬剤師)					
授業概要	病理学は、正常状態(生理状態)における各組織・臓器の構造や機能をもとに、病態時での各組織・臓器での構造や機能変化および病態からどのように回復するのかを学び、疾患の病因・病態・治療・予後について理解することを目的とする学問である。					
達成目標	1. 人体の構造と機能について説明できる。 2. 主要な疾病の病因、病態、治療、予後について説明できる。 3. 疾病がもたらす機能障害について説明できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	病理学とは何か?	事前:人体の各組織・臓器の構造や機能について理解しておく。		1	
	2	細胞の構造と機能	事前:人体の各組織・臓器の構造や機能について理解しておく。		1	
	3	細胞傷害と細胞増殖	事前:細胞の構造と機能について理解しておく。		1	
	4	組織、細胞の修復と再生	事前:細胞の構造と機能について理解しておく。		1	
	5	循環障害	事前:血液循環について理解しておく。		1	
	6	炎症	事後:急性炎症と慢性炎症の違いについて復習する。		1	
	7	免疫機構の異常	事後:免疫担当細胞および自己免疫疾患およびアレルギーについて復習する。		1	
	8	老化	事後:加齢に伴う各臓器の機能低下(病態)について復習する。		1	
	9	腫瘍1	事後:腫瘍の分類や名称について復習する。		1	
	10	腫瘍2	事後:腫瘍の発生・発育・進展について復習する。		1	
	11	感染症1	事後:病原微生物について復習する。		1	
	12	感染症2	事後:病原微生物の感染経路、感染力および宿主防御について復習する。		1	
	13	遺伝と先天異常	事前:遺伝子・染色体について理解しておく。		1	
	14	代謝異常	事前:3大栄養素について理解しておく。		1	
	15	まとめ	事後:全内容について総復習する。		1	
授業方法	教科書および配布資料にそって解説する。					
評価方法	筆記試験					
テキスト	笹野公伸/他 『シンプル病理学』 南江堂					
参考文献						
履修上の注意事項	人体に発生しうるさまざまな異常を病理学の立場から概念的にとらえることに主眼を置く。したがって、各疾患を臓器別に捉える各論よりも、病理学の総論を中心に講義を進める。必要に応じて各論も参照する。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	臨床心理学		担当教員	安田 傑		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	「臨床心理学」では、前半はクライアントの心の特性・状態を測定・分析する「心理アセスメント」を扱います。後半は、測定結果に基づき悩みを解決するサポートを行う「心理療法」を扱います。心理アセスメントも心理療法も、どちらも様々な理論や手法が存在するために、それぞれの特徴を理解し、自らの適性やクライアントの状態に応じた使い分けが必要となります。そのために必要な知識や技術を、この授業では学んでいきます。					
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理テストの6カテゴリーを理解できる。 2. 主要な心理テストを体験し、その結果の見かたが分かる。 3. 心理療法の3大主流(精神力動的理論、認知行動療法、人間性心理学)の違いが理解できる。 4. 心理療法の進め方、流れ、注意点を理解できる。 					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	心理アセスメント概論	事前: 日常で紹介される心理テストを体験する 事後: 日常の心理テストと、医療現場の心理テストの違いについて整理する		1	
	2	神経心理学的検査・作業検査法(内田クリペリンテスト・ベントン視覚記銘検査・MMSEの実施)	事前: 神経心理学的検査・作業検査法の概論を復習 事後: 授業中に体験した検査の結果を自分なりに整理する		1	
	3	質問紙法1(YG性格検査とMMPIの実施)	事前: 質問紙法の概論を復習。MMPIの予習 事後: 授業中に体験した検査の結果を自分なりに整理する		1	
	4	質問紙法2(CMI, GHQの実施、その他の質問紙法の説明)	事前: 質問紙法の概論を復習 事後: 授業中に体験した検査の結果を自分なりに整理する		1	
	5	投映法(SCTの実施、その他の投映法の説明)	事前: 投映法の概論を復習 事後: 授業中に体験した検査の結果を自分なりに整理する		1	
	6	知能検査(WAISのビデオ上映、その他の知能検査の説明)	事前: 知能検査の概論を復習 事後: 授業で扱った知能検査の実施方法について復習する		1	
	7	発達検査(発達障害の説明とビデオ上映・発達検査の説明)	事前: 発達障害について予習する 事後: 発達障害と発達検査の対応を復習する		1	
	8	心理療法の基盤的理論の復習	事前: フロイトの理論、学習理論の復習		1	
	9	行動療法1	事前: 学習心理学の理論の復習 事後: 行動療法1の理論の整理		1	
	10	行動療法2	事前: 行動療法1の復習 事後: 行動療法2の理論の整理		1	
	11	認知療法、論理療法、認知行動療法	事前: 行動療法の復習 事後: 行動療法や認知行動療法の内容を整理		1	
	12	人間性心理学1(来談者中心療法、エンカウンターグループ)	事前: 精神力動的理論と認知行動療法を復習 事後: ロジャーズのカウンセリング方法の復習		1	
	13	人間性心理学2(ゲシュタルト療法、交流分析)	事前: 人間性心理学1の復習 事後: 人間性心理学の理論を整理		1	
	14	その他の心理療法	事前: 精神力動的理論、認知行動療法、人間性心理学の復習		1	
	15	まとめ	事前: これまでの心理学の授業内容を総復習		1	
授業方法	板書を中心とした講義を行う。また、必要に応じて動画上映やレジュメ配布を行う。					
評価方法	定期試験(100%)					
テキスト	必要に応じて、レジュメを事前配布する。					
参考文献	石田彰/他編著 『臨床心理学用語辞典』 オーム社					
履修上の注意事項						

開講時期	2年生 昼間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	内科学 I		担当教員	神前 格		
			実務経験	○		
実務内容	開業医(内科医)					
授業概要	各疾患の病因・病態を理解し、症状・臨床経過・治療法を学ぶ。					
達成目標	各疾患の病因・病態・検査所見・症状・臨床経過・治療法を説明することが出来る。 各疾患の治療における理学療法役割を説明出来る。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	内科学総論 I	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	2	内科学総論 II	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	3	循環器疾患 I	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	4	循環器疾患 II	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	5	循環器疾患 III	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	6	呼吸器疾患 I	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	7	呼吸器疾患 II	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	8	呼吸器疾患 III	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	9	消化器疾患 I	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	10	消化器疾患 II	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	11	消化器疾患 III	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	12	肝・胆・膵疾患 I	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	13	肝・胆・膵疾患 II	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	14	プレゼンテーション I	事前:教科書・レジュメ・資料の復習 事後:重要事項の復習		1	
	15	プレゼンテーション II	事前:教科書・レジュメ・資料の復習 事後:重要事項の復習		1	
授業方法	講義:レジュメと資料を毎回配布します。					
評価方法	プレゼンテーション(2回で20点)期末試験(80点)					
テキスト	大成浄志/著 『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』 医学書院					
参考文献	『新臨床内科学』 医学書院					
履修上の 注意事項	日々の学習が大切です。復習はきちんとして下さい。					

開講時期	2年生 昼間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	内科学Ⅱ		担当教員	神前 格		
			実務経験	○		
実務内容	開業医(内科医)					
授業概要	各疾患の病因・病態を理解し、症状・臨床経過・治療法を学ぶ。					
達成目標	各疾患の病因・病態・検査所見・症状・臨床経過・治療法を説明することが出来る。 各疾患の治療における理学療法役割を説明出来る。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	血液疾患Ⅰ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	2	血液疾患Ⅱ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	3	血液疾患Ⅲ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	4	代謝性疾患Ⅰ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	5	代謝性疾患Ⅱ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	6	内分泌疾患Ⅰ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	7	内分泌疾患Ⅱ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	8	腎臓泌尿器疾患Ⅰ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	9	腎臓泌尿器疾患Ⅱ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	10	アレルギー疾患・膠原病Ⅰ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	11	アレルギー疾患・膠原病Ⅱ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	12	アレルギー疾患・膠原病Ⅲ	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	13	感染症・中毒	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	14	プレゼンテーションⅠ	事前:教科書・レジュメ・資料の復習 事後:重要事項の復習		1	
	15	プレゼンテーションⅡ	事前:教科書・レジュメ・資料の復習 事後:重要事項の復習		1	
授業方法	講義:レジュメと資料を毎回配布します。					
評価方法	プレゼンテーション(2回で20点)期末試験(80点)					
テキスト	大成浄志/著 『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』 医学書院					
参考文献	『新臨床内科学』 医学書院					
履修上の 注意事項	日々の学習が大切です。復習はきちんとして下さい。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	整形外科学 I		担当教員	津田 晃佑		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(整形外科医)					
授業概要	理学療法に必要な骨関節、神経疾患などの整形外科的知識を学習する。					
達成目標	骨関節障害の一般的疾患の①疫学・予後について、②病因・症候について、③検査・診断・治療について説明できる。					
			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)			
授 業 計 画	1	骨関節の構造と機能	事後:講義範囲の復習			1
	2	四肢の診察法	事後:講義範囲の復習			1
	3	脊椎の診察法	事後:講義範囲の復習			1
	4	変形性関節症	事後:講義範囲の復習			1
	5	関節リウマチ	事後:講義範囲の復習			1
	6	感染性骨関節疾患	事後:講義範囲の復習			1
	7	末梢神経障害(1)	事後:講義範囲の復習			1
	8	末梢神経障害(2)	事後:講義範囲の復習			1
	9	骨粗鬆症	事後:講義範囲の復習			1
	10	代謝性骨疾患	事後:講義範囲の復習			1
	11	良性骨腫瘍	事後:講義範囲の復習			1
	12	悪性骨腫瘍	事後:講義範囲の復習			1
	13	転移性骨腫瘍・軟部腫瘍	事後:講義範囲の復習			1
	14	骨腫瘍類似疾患・骨系統疾患	事後:講義範囲の復習			1
	15	骨壊死・骨端症	事後:講義範囲の復習			1
授業方法	講義					
評価方法	筆記試験					
テキスト	松村譲児/他監 『病気がみえる vol.11 運動器・整形外科』 メディックメディア					
参考文献						
履修上の 注意事項						

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	整形外科Ⅱ		担当教員	津田 晃佑		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(整形外科医)					
授業概要	理学療法に必要な骨関節、神経疾患などの整形外科的知識を学習する。					
達成目標	骨関節障害の一般的疾患の①疫学・予後について、②病因・症候について、③検査・診断・治療について説明できる。					
			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)			
授 業 計 画	1	外傷のプライマリケア・骨折総論	事後:講義範囲の復習			1
	2	上肢の骨折と脱臼	事後:講義範囲の復習			1
	3	骨盤・下肢の骨折	事後:講義範囲の復習			1
	4	頸椎・胸椎疾患	事後:講義範囲の復習			1
	5	腰椎疾患	事後:講義範囲の復習			1
	6	脊髄腫瘍・脊椎の炎症と変形	事後:講義範囲の復習			1
	7	脊椎の外傷・脊髄損傷	事後:講義範囲の復習			1
	8	小児股関節疾患	事後:講義範囲の復習			1
	9	膝関節疾患	事後:講義範囲の復習			1
	10	足の疾患	事後:講義範囲の復習			1
	11	肩・肘関節疾患	事後:講義範囲の復習			1
	12	手の疾患	事後:講義範囲の復習			1
	13	軟部疾患・その他の特殊な疾患	事後:講義範囲の復習			1
	14	熱傷・褥瘡	事後:講義範囲の復習			1
	15	切断	事後:講義範囲の復習			1
授業方法	講義					
評価方法	筆記試験					
テキスト	松村譲児/他監 『病気がみえる vol.11 運動器・整形外科』 メディックメディア					
参考文献						
履修上の 注意事項						

開講時期	2年生 昼間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	神経内科学 I		担当教員	榎木 英介		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	理学療法士にとって必要な神経内科学について学習する。総論、各論の区別をなくし、理学療法に役に立つ実践的知識の習得を目指す。					
達成目標	下記の疾患について理解し、国家試験レベルの問題を解答できるレベルまで高める。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	臨床診断の基礎	事後:学習内容の復習をすること。		1	
	2	臨床検査	事後:学習内容の復習をすること。		1	
	3	脳血管障害	事後:学習内容の復習をすること。		1	
	4		事後:学習内容の復習をすること。		1	
	5	高次脳機能障害(脳血管障害, 頭部外傷, 脳腫瘍)	事後:学習内容の復習をすること。		1	
	6		事後:学習内容の復習をすること。		1	
	7	認知症	事後:学習内容の復習をすること。		1	
	8		事後:学習内容の復習をすること。		1	
	9		事後:学習内容の復習をすること。		1	
	10	変性疾患	事後:学習内容の復習をすること。		1	
	11		事後:学習内容の復習をすること。		1	
	12	脱髄疾患	事後:学習内容の復習をすること。		1	
	13	末梢神経疾患	事後:学習内容の復習をすること。		1	
	14		事後:学習内容の復習をすること。		1	
	15	まとめ	事後:演習問題について、解答できなかつた問題を中心に復習すること。		1	
授業方法	講義を行う。テキストを中心に解説する。					
評価方法	期末試験によって達成度を評価する。					
テキスト	今井富裕/著 『はじめての講義 リハビリテーションのための神経内科学の学び方』 南江堂					
参考文献	随時資料配布。					
履修上の 注意事項	授業は真剣に取り込むこと。復習が特に大切である。 テキスト中心なので、十分読み込んでほしい。					

開講時期	2年生 昼間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	神経内科学Ⅱ		担当教員	榎木 英介		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	理学療法士にとって必要な神経内科学について学習する。総論、各論の区別をなくし、理学療法に役に立つ実践的知識の習得を目指す。					
達成目標	下記の疾患について理解し、国家試験レベルの問題を解答できるレベルまで高める。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	筋疾患	事後:学習内容の復習をすること。		1	
	2		事後:学習内容の復習をすること。		1	
	3	神経感染症	事後:学習内容の復習をすること。		1	
	4		事後:学習内容の復習をすること。		1	
	5		事後:学習内容の復習をすること。		1	
	6	機能性疾患	事後:学習内容の復習をすること。		1	
	7	代謝・中毒性疾患	事後:学習内容の復習をすること。		1	
	8	脊椎・脊髄疾患	事後:学習内容の復習をすること。		1	
	9		事後:学習内容の復習をすること。		1	
	10	内科疾患に伴う神経疾患	事後:学習内容の復習をすること。		1	
	11		事後:学習内容の復習をすること。		1	
	12		事後:学習内容の復習をすること。		1	
	13	小児神経疾患	事後:学習内容の復習をすること。		1	
	14		事後:学習内容の復習をすること。		1	
	15	まとめ	事後:間違えた問題を中心に復習すること。		1	
授業方法	講義を行う。テキストを中心に解説する。					
評価方法	期末試験によって達成度を評価する。					
テキスト	今井富裕/著 『はじめての講義 リハビリテーションのための神経内科学の学び方』 南江堂					
参考文献	随時資料配布。					
履修上の 注意事項	授業は真剣に取り込むこと。復習が特に大切である。 テキスト中心なので、十分読み込んでほしい。					

開講時期	2年生 昼間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	脳神経外科学		担当教員	山田 昌稔		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(脳神経外科専門医)					
授業概要	脳神経外科学とは脳及び脊髄という中枢神経から末梢神経に及ぶ神経系疾患について外科的観点から解剖・病態生理・症候学を理解し診断及び治療を行う学問の体系である。本講義では、脳神経外科学の基礎となる外科解剖、症候学を理解し、各疾患に対する現時点での標準的な概念理解と診断・治療の過程を解説する。それにより脳・脊髄疾患に対する理解を深め、将来自らが関わるであろう患者の病態理解とリハビリテーションの意義と可能性について学んでいただきたい。					
達成目標	1. ヒトの健康・医療における脳神経外科学の意義について理解する。 2. 中枢神経系の解剖生理と症候学の関連を理解し説明できる。 3. 各脳神経外科疾患の画像診断、外科的・内科的治療方法、臨床経過を理解する。 4. 脳神経外科疾患と関連する現代の社会的問題を把握し、関連付けて理解を深める。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	脳神経外科概論	事前:テキストの該当部分の予習 事後:脳神経外科の意義と概念理解			1
	2	精神症状と認知症	事前:テキストの該当部分の予習 事後:精神症状・認知の解剖生理復習			1
	3	頭痛	事前:テキストの該当部分の予習 事後:頭痛の生理学の復習			1
	4	画像診断と読影	事前:テキストの該当部分の予習 事後:CT、MRI所見の復習			1
	5	脊髄・脊椎疾患①	事前:テキストの該当部分の予習 事後:脊髄解剖の復習			1
	6	脊髄・脊椎疾患②	事前:テキストの該当部分の予習 事後:脊髄神経症候学の復習			1
	7	頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア	事前:テキストの該当部分の予習 事後:頭蓋内病態生理の復習			1
	8	意識障害、てんかんとけいれん	事前:テキストの該当部分の予習 事後:脳解剖理解とてんかん学の復習			1
	9	脳血管障害①	事前:脳出血について予習 事後:脳出血画像と外科治療の復習			1
	10	脳血管障害②	事前:脳梗塞について予習 事後:脳血管解剖と症候学の復習			1
	11	脳腫瘍①	事前:悪性脳腫瘍について予習 事後:腫瘍学の1つとしての理解			1
	12	脳腫瘍②	事前:良性脳腫瘍について予習 事後:脳腫瘍と水頭症について復習			1
	13	頭部外傷①	事前:テキストの該当部分の予習 事後:頭部外傷画像の復習			1
	14	頭部外傷②	事前:テキストの該当部分の予習 事後:小児・スポーツ頭部外傷の復習			1
	15	まとめ	事前:中枢神経の外科治療の予習 事後:解剖・症候学と外科治療の復習			1
授業方法	スライド授業と講義(座学)					
評価方法	終講試験のみ					
テキスト	児玉南海雄/他監 『標準脳神経外科学』 医学書院					
参考文献	配布資料					
履修上の 注意事項	解剖用語、専門用語に慣れ、解剖・病態生理・症候学を理解する。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	精神医学		担当教員	山野 恵美		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	「こころ」や思考はそのヒトの気質・性格・身体のおかれた状況などによりきわめて個性的にはたらく。そうした「こころ」や思考を体系的に捉えようとした精神医学的な考え方を習得し、そのうえで、医療現場における患者の精神・神経・身体状況をより深く理解できることを目標とする。					
達成目標	1. 気分障害・不安障害や統合失調症をはじめとするこころの病気と脳機能のはたらきを照らし合わせて理解できる。 2. 脳の器質的疾患について理解できる。 3. 各疾患の治療薬に関して作用メカニズムを理解できる。 4. 精神作用物質やその障害について理解できる。 5. ヒトの精神・神経・身体の間を関連を理解できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	精神医学とは	事前:精神医学の関連内容を予習		1	
	2	脳とこころ	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		1	
	3	気分障害	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		1	
	4	うつ病	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		1	
	5	不安障害	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		1	
	6	不安障害	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		1	
	7	統合失調症	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		1	
	8	人格・行動障害	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		1	
	9	児童・青年期および高齢者の精神医学	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		1	
	10	精神作用物質使用による障害	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		1	
	11	脳器質的疾患	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		1	
	12	脳器質的疾患	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		1	
	13	睡眠およびその障害・てんかん	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		1	
	14	心理療法・薬物療法	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		1	
	15	まとめ	事前:テキスト関連内容の予習 事後:授業内容の復習		1	
授業方法	テキストやプリントを用いながら、黒板を使用して解説する。適宜、プロジェクターによる映写も併用する。					
評価方法	筆記試験					
テキスト	越野好文/他著 『好きになる精神医学』 講談社 太田保之/他著 『学生のための精神医学』 医歯薬出版					
参考文献						
履修上の注意事項	授業での学習内容を復習すること。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	救急救命医学		担当教員	村田 剛士、田村 優貴 材木 力斗		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	医師、看護師、理学療法士それぞれの立場から、救急救命に対する知識、技術、リスクを学習する。					
達成目標	医療従事者として必要な救急救命医学について理解する。 理学療法士が担う職域が広がる中、救急救命医学に関する知識を持ち、いかなる状況でも対応できる能力を身に着ける。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	救急医療体制	事後:授業内容の復習			1
	2		事後:授業内容の復習			1
	3	症候群(意識低下、けいれん、失神、めまい、呼吸困難、胸痛、動悸、急性肺障害、急性呼吸促進症候群、嘔気・嘔吐、腹痛、頭痛、咽頭痛、腰背部痛、全身性炎症反応症候群)	事後:授業内容の復習			1
	4		事後:授業内容の復習			1
	5		事後:授業内容の復習			1
	6	心肺蘇生・応急処置の方法	事後:授業内容の復習			1
	7	一次救命処置	事後:授業内容の復習			1
	8		事後:授業内容の復習			1
	9	二次救命処置	事後:授業内容の復習			1
	10		事後:授業内容の復習			1
	11	理学療法場面で起こりえる医療事故(インシデントを含む)やリスク	事後:授業内容の復習			1
	12		事後:授業内容の復習			1
	13	理学療法関連機器の安全点検・整備	事後:授業内容の復習			1
	14	超急性期リハビリテーション	事後:授業内容の復習			1
	15	ICUにおけるリハビリテーション	事後:授業内容の復習			1
授業方法	講義、実技					
評価方法	出席率、受講態度					
テキスト	随時資料配布					
参考文献						
履修上の注意事項						

開講時期	2年生 昼間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	小児科学		担当教員	神前 格		
			実務経験	○		
実務内容	開業医(内科医)					
授業概要	各疾患の病因・病態を理解し、症状・臨床経過・治療法を学ぶ。					
達成目標	各疾患の病因・病態・検査所見・症状・臨床経過・治療法を説明することが出来る。 各疾患の治療における理学療法役割を説明出来る。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	概論	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	2	診断と治療の概論	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	3	新生児・未熟児疾患	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	4	先天異常と遺伝病	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	5	神経・筋・骨系疾患	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	6	循環器疾患	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	7	呼吸器疾患	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	8	感染症	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	9	消化器疾患	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	10	内分泌・代謝疾患	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	11	血液疾患	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	12	免疫アレルギー疾患・膠原病	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	13	腎疾患・腫瘍性疾患	事前:教科書の予習 事後:レジュメ・資料の復習		1	
	14	プレゼンテーションⅠ	事前:教科書・レジュメ・資料の復習 事後:重要事項の復習		1	
	15	プレゼンテーションⅡ	事前:教科書・レジュメ・資料の復習 事後:重要事項の復習		1	
授業方法	講義;レジュメと資料を毎回配布します。					
評価方法	プレゼンテーション(2回で20点)期末試験(80点)					
テキスト	富田豊/編 『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学』 医学書院					
参考文献	内山聖/監 『標準小児科学』 医学書院					
履修上の 注意事項	日々の学習が大切です。復習はきちんとして下さい。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法研究法 I		担当教員	専任教員		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	4分野に分かれ、ゼミナール形式で学習を進める。 その前段階として、それぞれの教員よりテーマを発表する。					
達成目標	近年、理学療法を実施するにあたり、エビデンスの構築が求められる。マニュアル通りの理学療法では対処できないことの方が多く、科学的、論理的に考え、治療方針を立てることが重要となる。本科目では4つの専門分野に分かれ、専門的な活動を通して論理的な思考を獲得する。					
授 業 計 画	1	ゼミオリエンテーション				
	2					
	3	【授業方法】				
	4	1) 教員よりテーマを指示するので、希望の講座を申し出ること。				
	5	2) 諸都合により、希望以外の講座となることもある。				
	6	3) 活動内容は、担当教員の指示を仰ぐこと。				
	7	【内容】				
	8	医療分野				
	9	福祉分野				
	10	スポーツ分野				
	11	保健分野				
	12					
	13					
	14					
	15					
授業方法	講義、研究活動、フィールドワーク					
評価方法	報告書、出席					
テキスト						
参考文献						
履修上の 注意事項	ゼミナールの進行に関しては各担当教員の指示を仰ぐこと。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法研究法Ⅱ		担当教員	専任教員		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	4分野に分かれ、ゼミナール形式で学習を進める。					
達成目標	近年、理学療法を実施するにあたり、エビデンスの構築が求められる。マニュアル通りの理学療法では対処できないことの方が多く、科学的、論理的に考え、治療方針を立てることが重要となる。本科目では4つの専門分野に分かれ、専門的な活動を通して論理的な思考を獲得する。					
授 業 計 画	1	【授業方法】				
	2	1) 教員よりテーマを指示するので、希望の講座を申し出ること。				
	3	2) 諸都合により、希望以外の講座となることもある。				
	4	3) 活動内容は、担当教員の指示を仰ぐこと。				
	5	【内容】				
	6	医療分野				
	7	福祉分野				
	8	スポーツ分野				
	9	保健分野				
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
授業方法	研究活動、フィールドワーク					
評価方法	報告書、出席					
テキスト						
参考文献						
履修上の 注意事項	ゼミナールの進行に関しては各担当教員の指示を仰ぐこと。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法評価学Ⅲ		担当教員	市田 修一、川瀬 和久保 明裕		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床					
授業概要	運動麻痺検査、筋緊張検査、感覚検査、整形外科的Special test、反射・反応検査、協調性検査、平衡機能・バランス検査、総合テストについての学習を実技を含めて行う。					
達成目標	理学療法評価の意義・分類・目的を理解する。検査・測定技術を習得し、正確に実施できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	整形外科Special test(川瀬:実技)	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習			1
	2		事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習			1
	3	総合テスト(市田)	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習			1
	4		事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習			1
	5	運動麻痺検査(市田:実技)	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習			1
	6		事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習			1
	7	筋緊張検査(久保:実技)	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習			1
	8		事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習			1
	9	協調性検査(市田:実技)	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習			1
	10		事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習			1
	11	感覚検査(川瀬:実技)	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習			1
	12		事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習			1
	13	反射・反応検査(姿勢反射・反応、表在反射、病的反射) (久保:実技)	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習			1
	14		事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習			1
	15	平衡機能・バランス検査(久保)	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習			1
授業方法	講義と実技形式にて実施。					
評価方法	筆記試験、実技試験、出席率、授業態度を総合して評価。					
テキスト	潮見泰藏/他編 『リハビリテーション基礎評価学』 羊土社 田崎義昭/他著 『ベッドサイドの神経の診かた』 南山堂					
参考文献						
履修上の 注意事項	実技時は、正確に修学できるように半袖・半ズボンで出席すること。 実技の実施日については、その都度連絡します。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法評価学演習		担当教員	久保 明裕		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)					
授業概要	理学療法プロセス内の評価計画に於いて、必要な評価項目を実施順位を考慮して抽出できるように講義やグループワークを通じて学習を行う。					
達成目標	症例理解に必要となる評価項目を、優先順位を考慮し抽出ができる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	総論	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習		1	
	2	神経障害の評価①	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習		1	
	3	神経障害の評価②	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習		1	
	4	神経障害の評価③	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習		1	
	5	神経障害の評価④	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習		1	
	6	骨関節障害の評価①	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習		1	
	7	骨関節障害の評価②	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習		1	
	8	骨関節障害の評価③	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習		1	
	9	骨関節障害の評価④	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習		1	
	10	内部障害の評価①	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習		1	
	11	内部障害の評価②	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習		1	
	12	内部障害の評価③	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習		1	
	13	内部障害の評価④	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習		1	
	14	症例検討①	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習		1	
	15	症例検討②	事前:講義内容の予習 事後:講義内容の復習		1	
授業方法	講義とグループワーク					
評価方法	出席率、授業態度、課題提出、グループ発表を総合して評価。					
テキスト	潮見泰藏/他編 『リハビリテーション基礎評価学』 羊土社 田崎義昭/他著 『ベッドサイドの神経の診かた』 南山堂					
参考文献						
履修上の 注意事項						

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法評価学実習		担当教員	高橋 美和		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床					
授業概要	トップダウン形式での評価過程において、姿勢・動作分析は、重要であるものの経験や熟練が必要な面も多く、初学者にとってハードルの高いものとなっている。本講義では、動作観察・動作分析の基礎的な理論と技術を学ぶとともに、機能障害と能力障害との関連性を学ぶ。					
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・トップダウン式の評価過程が理解できる。 ・動作観察・動作分析の基本的考え方がわかる。 ・動作観察・動作分析の手順・記載方法と観察・分析の方法がわかる。 ・問題となる動作から機能障害の仮説がたてられる。 					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション	事後:配布資料・教科書を復習		1	
	2	トップダウン式評価過程	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	3	姿勢・動作分析	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	4	症例動作分析(脳血管疾患)①	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	5	症例動作分析(脳血管疾患)②	検討症例について各グループ発表での内容を検討・要点を再度復習しておく		1	
	6	症例動作分析(脳血管疾患)③	検討症例について各グループ発表での内容を検討・要点を再度復習しておく		1	
	7	症例動作分析(パーキンソニズム)①	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	8	症例動作分析(パーキンソニズム)②	検討症例について各グループ発表での内容を検討・要点を再度復習しておく		1	
	9	症例動作分析(パーキンソニズム)③	検討症例について各グループ発表での内容を検討・要点を再度復習しておく		1	
	10	症例動作分析(運動失調)①	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	11	症例動作分析(運動失調)②	検討症例について各グループ発表での内容を検討・要点を再度復習しておく		1	
	12	症例動作分析(運動失調)③	検討症例について各グループ発表での内容を検討・要点を再度復習しておく		1	
	13	症例動作分析(変形性膝関節症)①	事前:教科書の予習 事後:配布資料・教科書を復習		1	
	14	症例動作分析(変形性膝関節症)②	検討症例について各グループ発表での内容を検討・要点を再度復習しておく		1	
	15	症例動作分析(変形性膝関節症)③	検討症例について各グループ発表での内容を検討・要点を再度復習しておく		1	
授業方法	講義・グループワーク					
評価方法	授業態度・出席率・課題提出・グループ発表					
テキスト	隈元庸夫/著 『症例動作分析—動画から学ぶ姿勢と動作』 ヒューマン・プレス					
参考文献	石井慎一郎/編著 『動作分析 臨床活用講座』 MEDICAL VIEW 潮見泰藏/他編 『リハビリテーション基礎評価学』 羊土社					
履修上の注意事項	実技も含むため、動きやすい服装で臨むこと。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	姿勢・動作分析学		担当教員	木下 拓真		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)					
授業概要	理学療法の目的は基本的動作能力の回復・維持である。その為、対象者を評価するには、必ず基本動作の観察・分析が含まれる。この評価過程において、基本動作が成り立つメカニズムの理解は必要不可欠である。本講義では、基本動作(寝返り・起き上がり・立ち上がり・歩行)が成り立つメカニズムを実技を交えて学ぶ。					
達成目標	1.動作を行う上での姿勢制御について理解する。 2.姿勢・動作分析の方法について理解する。 3.寝返り動作のメカニズムについて理解する。 4.起き上がり動作のメカニズムについて理解する。 5.立ち上がり動作のメカニズムについて理解する。 6.歩行のメカニズムについて理解する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション				
	2	動作分析の目的とは				
	3	姿勢制御のバイオメカニクス	事前:Ⅱ姿勢制御ノメカニズム予習 事後:Ⅱ姿勢制御メカニズム復習			1
	4	姿勢制御のバイオメカニクス	事前:Ⅱ姿勢制御ノメカニズム予習 事後:Ⅱ姿勢制御メカニズム復習			1
	5	寝返り動作のメカニズム	事前:Ⅲ寝返り動作の分析予習 事後:Ⅲ寝返り動作の分析復習			1
	6	寝返り動作の観察と分析	事前:Ⅲ寝返り動作の分析予習 事後:Ⅲ寝返り動作の分析復習			1
	7	起き上がり動作のメカニズム	事前:Ⅳ起き上がり動作の分析予習 事後:Ⅳ起き上がり動作の分析復習			1
	8	起き上がり動作の観察と分析	事前:Ⅳ起き上がり動作の分析予習 事後:Ⅳ起き上がり動作の分析復習			1
	9	立ち上がり動作のメカニズム	事前:Ⅴ立ち上がり動作の分析予習 事後:Ⅴ立ち上がり動作の分析復習			1
	10	立ち上がり動作の観察と分析	事前:Ⅴ立ち上がり動作の分析予習 事後:Ⅴ立ち上がり動作の分析復習			1
	11	歩行動作のメカニズム	事前:Ⅵ歩行動作の分析予習 事後:Ⅴ歩行動作の分析復習			2
	12	歩行動作のメカニズム	事前:Ⅵ歩行動作の分析予習 事後:Ⅴ歩行動作の分析復習			2
	13	歩行動作の観察と分析	事前:Ⅵ歩行動作の分析予習 事後:Ⅴ歩行動作の分析復習			2
	14	歩行動作の観察と分析	事前:Ⅵ歩行動作の分析予習 事後:Ⅴ歩行動作の分析復習			1
	15	まとめ				
授業方法	講義・実技					
評価方法	筆記試験					
テキスト	石井慎一郎/編著 『動作分析 臨床活用講座』 MEDICAL VIEW					
参考文献						
履修上の 注意事項	実技を行うので動きやすい服装であること。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	物理療法 I		担当教員	大井 直樹		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床					
授業概要	この授業では、理学療法士の治療方法の一つである「物理療法」について、その特徴と治療方法について学んでいく。					
達成目標	①物理療法機器のメカニズムを理解する。 ②物理療法機器の作用・効果を理解した上で適切に使用できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	物理療法総論、痛みの生理学と病理学	事前:物理療法・痛みの理解 事後:物理療法・痛みの理解			1
	2	痛みの生理学と病理学	事前:痛みのメカニズムの理解 事後:痛みのメカニズムの理解			1
	3	痛みの生理学と病理学	事前:痛みのメカニズムの理解 事後:痛みのメカニズムの復習			1
	4	関節可動域制限	事前:関節可動域制限の病態理解 事後:関節可動域制限の病態理解			1
	5	温熱療法総論(物理学)	事前:温熱療法の物理学の理解 事後:温熱療法の物理学の理解			1
	6	温熱療法総論(生理学)	事前:温熱療法の生理学の理解 事後:温熱療法の生理学の理解			1
	7	ホットパック、パラフィン浴	事前:ホットパックの理解 事後:ホットパックの使用方法的理解			1
	8	パラフィン浴、水治療法	事前:パラフィン浴・水治療法の理解 事後:パラフィン浴の使用方法的理解			1
	9	水治療法	事前:水治療法の理解 事後:水治療法の使用方法的理解			1
	10	超短波療法	事前:超短波療法の理解 事後:超短波療法の使用方法的理解			1
	11	極超短波療法	事前:極超短波療法の理解 事後:極超短波療法の使用方法的理解			1
	12	超音波療法	事前:超音波療法の理解 事後:超音波療法の使用方法的理解			1
	13	超音波療法、温熱療法まとめ	事前:超音波療法の理解 事後:温熱療法の復習			1
	14	寒冷療法	事前:寒冷療法の理解 事後:寒冷療法の使用方法的理解			1
	15	まとめ	事前:前期に学んだことの理解 事後:前期に学んだことの整理			1
授業方法	講義と実習					
評価方法	ペーパーテスト、授業態度により総合的に判断する。					
テキスト	庄本康治/編 『エビデンスから身につける物理療法』 羊土社					
参考文献	上杉雅之/監 『イラストでわかる物理療法』 医歯薬出版					
履修上の 注意事項	実習時には、着脱の容易な服装で授業に臨むこと。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	物理療法Ⅱ		担当教員	大井 直樹		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床					
授業概要	この授業では、理学療法士の治療方法の一つである「物理療法」について、その特徴と治療方法について学んでいく。					
達成目標	①物理療法機器のメカニズムを理解する。 ②物理療法機器の作用・効果を理解した上で適切に使用できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	光線療法総論、レーザー療法	事前:光線療法の理論の理解 事後:光線療法の理論の理解			1
	2	レーザー療法	事前:レーザー療法の理解 事後:レーザー療法の使用方法の理解			1
	3	赤外線療法、紫外線療法	事前:各療法の理解 事後:各療法の使用方法の復習			1
	4	電気刺激療法	事前:電気の基礎知識の理解 事後:電気の基礎知識の復習			1
	5	電気刺激療法、TENS	事前:電気刺激療法の理解 事後:電気刺激療法の理解			1
	6	TENS	事前:TENSの理解 事後:TENSの使用法の理解			1
	7	NMES	事前:NMESの理解 事後:NMESの使用法の理解			1
	8	NMES	事前:NMESの理解 事後:NMESの使用法の理解			1
	9	その他の電気刺激療法	事前:電気刺激療法の理解 事後:電気刺激療法の理解			1
	10	圧迫療法	事前:圧迫療法の理解 事後:圧迫療法の理解			1
	11	圧迫療法、牽引療法	事前:圧迫療法・牽引療法の理解 事後:圧迫療法・牽引療法の理解			1
	12	牽引療法	事前:牽引療法の理解 事後:牽引療法の使用方法の理解			1
	13	牽引療法、振動刺激療法	事前:牽引療法・振動刺激療法の理解 事後:牽引療法・振動刺激療法の理解			1
	14	振動刺激療法	事前:振動刺激療法の理解 事後:振動刺激療法の使用方法の理解			1
	15	まとめ	事前:後期に学んだことの理解 事後:後期に学んだことの整理			1
授業方法	講義と実習					
評価方法	ペーパーテスト、授業態度により総合的に判断する。					
テキスト	庄本康治/編 『エビデンスから身につける物理療法』 羊土社					
参考文献	上杉雅之/監 『イラストでわかる物理療法』 医歯薬出版					
履修上の 注意事項	実習時には、着脱の容易な服装で授業に臨むこと。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	運動療法 I		担当教員	岡林 豊		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)					
授業概要	運動器系の解剖、生理、反射理論、学習理論の基礎的原理と各種運動療法の具体的治療方法との関係を説明する。					
達成目標	運動療法の基礎的な原理と方法を学び、基礎的な運動療法が実施できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	運動療法総論	事後:講義内容の復習		1	
	2	関節について	事前:解剖の復習 事後:講義内容の復習		1	
	3	関節可動域制限、結合組織	事後:講義内容の復習		1	
	4	運動の基本	事後:講義内容の復習		1	
	5	関節可動域運動、伸張運動	事後:講義内容の復習		1	
	6	関節可動域運動、伸張運動(実技)	事後:講義内容の復習		1	
	7	筋肉について	事前:解剖の復習 事後:講義内容の復習		1	
	8	筋力の概念	事後:講義内容の復習		1	
	9	筋力増強運動	事後:講義内容の復習		1	
	10		事後:講義内容の復習		1	
	11	筋持久力・全身持久力増強運動	事後:講義内容の復習		1	
	12		事後:講義内容の復習		1	
	13		事後:講義内容の復習		1	
	14	筋力増強運動(実技) 筋持久力・全身持久力増強運動(実技)	事後:講義内容の復習		1	
	15		事後:講義内容の復習		1	
授業方法	講義、実技					
評価方法	筆記試験					
テキスト	吉尾雅春/編 『標準理学療法学 運動療法学 総論』 医学書院					
参考文献						
履修上の 注意事項	実技のときは動きやすい服装に着替えること。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	運動療法Ⅱ		担当教員	岡林 豊		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)					
授業概要	運動器系の解剖、生理、反射理論、学習理論の基礎的原理と各種運動療法の具体的治療方法との関係を説明する。					
達成目標	運動療法の基礎的な原理と方法を学び、基礎的な運動療法が実施できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	全身調整運動	事後:講義内容の復習		1	
	2		事後:講義内容の復習		1	
	3	リラクゼーション	事後:講義内容の復習		1	
	4	協調性運動(バランス障害含む)	事後:講義内容の復習		1	
	5		事後:講義内容の復習		1	
	6	神経筋再教育・神経生理学的アプローチ	事後:講義内容の復習		1	
	7		事後:講義内容の復習		1	
	8		事後:講義内容の復習		1	
	9		事後:講義内容の復習		1	
	10	基本動作獲得・改善	事後:講義内容の復習		1	
	11		事後:講義内容の復習		1	
	12	水中運動療法	事後:講義内容の復習		1	
	13	治療体操、リスク管理	事後:講義内容の復習		1	
	14	痛みに対する治療	事後:講義内容の復習		1	
	15	運動学習	事後:講義内容の復習		1	
授業方法	講義、実技					
評価方法	筆記試験					
テキスト	吉尾雅春/編 『標準理学療法学 運動療法学 総論』 医学書院					
参考文献						
履修上の 注意事項	実技のときは動きやすい服装に着替えること。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	日常生活活動 I		担当教員	久保 明裕		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)					
授業概要	①日常生活活動(ADL)の概論を学習する。 ②日常生活を営む上で必要な基本的動作や、ADL支援機器を用いた動作について実技を通して学習する。					
達成目標	日常生活活動(食事・更衣・入浴・排泄・整容移動など日常生活に必要な活動)について理解する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	ADLの概念と範囲、ADL分類	事前:理学療法概論(ICF/QOL)を復習 事後:講義内容の復習			2
	2					
	3	ADL動作の構成要素	事前:ADLと基本的動作動作との関連 事後:講義内容の復習			2
	4					
	5	基本的動作の観察と分析	事前:ADLと基本的動作動作との関連 事後:講義内容の復習			2
	6					
	7	ADL動作の観察と分析	事前:ADLと基本的動作動作との関連 事後:講義内容の復習			2
	8					
	9	ADL評価方法の確認と体験	事前:ADL内容の確認 事後:講義内容の復習			2
	10					
	11	ADL支援機器の種類と設定体験	事前:支援機器の種類 事後:講義内容の復習			2
	12					
	13	ADL支援機器の操作体験	事前:支援機器の設定方法 事後:講義内容の復習			2
	14					
	15	支援機器と自助具の見学と体験	事前:機器の種類と特徴 事後:体験内容の復習			1
授業方法	講義、実技実習を中心に進めていく。					
評価方法	筆記試験、授業態度					
テキスト	柴喜崇/編 『PT・OTビジュアルテキスト ADL』 羊土社					
参考文献	千住秀明/編 理学療法学テキストV 『日常生活活動(ADL)』 神陵文庫 斎藤宏/他著 『姿勢と動作』 メヂカルフレンド社 鶴見隆正/編 標準理学療法学 『日常生活活動学・生活環境学』 医学書院					
履修上の 注意事項	実技の際には、動きやすい服装で臨むこと。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	日常生活活動Ⅱ		担当教員	久保 明裕		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)					
授業概要	①日常生活活動(ADL)と障害について学習する。 ②代表的な疾患における日常生活活動の動作介助及び指導方法を学習する(ADL支援機器を用いた動作も含む)。					
達成目標	疾病ごとの日常生活活動(食事・更衣・入浴・排泄・整容移動など日常生活に必要な活動)について理解する。					
			学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)	
授 業 計 画	1	ADLの運動学的分析	事前:重心移動・てこの原理を復習 事後:講義内容の復習		1	
	2	脳卒中片麻痺に対する動作介助及び指導方法について(ADL支援機器を用いた動作も含む)	事前:脳卒中の病態を復習 事後:講義内容の復習		4	
	3					
	4					
	5	パーキンソン病に対する動作介助及び指導方法について(ADL支援機器を用いた動作も含む)	事前:パーキンソン病の病態を復習 事後:講義内容の復習		3	
	6					
	7					
	8	脊髄損傷(四肢麻痺・対麻痺)に対する動作介助及び指導方法について(ADL支援機器を用いた動作も含む)	事前:脊髄損傷の病態を復習 事後:講義内容の復習		3	
	9					
	10					
	11	下肢骨折(手術後)に対する動作介助及び指導方法について(ADL支援機器を用いた動作も含む)	事前:下肢骨折手術後の後療法を復習 事後:講義内容の復習		2	
	12					
	13					
	14	呼吸器疾患・循環器疾患に対する動作介助及び指導方法について(ADL支援機器を用いた動作も含む)	事前:呼吸器・循環器疾患の病態を復習 事後:講義内容の復習		2	
	15					
授業方法	講義、実技実習を中心に進めていく。					
評価方法	筆記試験、授業態度					
テキスト	柴喜崇/編 『PT・OTビジュアルテキスト ADL』 羊土社					
参考文献	千住秀明/編 理学療法学テキストV 『日常生活活動(ADL)』 神陵文庫 斎藤宏/他著 『姿勢と動作』 メヂカルフレンド社 鶴見隆正/編 標準理学療法学 『日常生活活動学・生活環境学』 医学書院					
履修上の注意事項	実技の際には、動きやすい服装で臨むこと。					

開講時期	2年生 昼・夜間部 通年	分野	専門	単位(時間)	1(45)
科目名	見学体験実習	担当教員	専任教員		
		実務経験			
実務内容					
授業概要	医療提供施設1ヶ所(理学療法業務)で5日間の実習を行う。				
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者や施設・医療スタッフに対して適切な態度で接すること、診療チームの一員としての理学療法士の役割について学ぶ。 ・チェックリスト内の項目(水準Ⅰ:指導者の直接監視下で実習生により実施されるべき項目)について可能な限り見学し、その意義・目的について学ぶ。 				
授 業 計 画	<p>実技試験 実習で使用する基本的な評価技術を見る</p> <p>実習前オリエンテーション</p> <p>実習前レポートの作成 各自の行動目標を作成する。</p> <p>実習内容(下記内容を可能な限り見学する) <ul style="list-style-type: none"> 理学療法の対象者との関係性構築 チーム内での多職種との関係性および理学療法士としての役割 理学療法プロセスの理解 対象者に対する理学療法実践 <ul style="list-style-type: none"> 1)リスク管理について 2)理学療法評価について 3)理学療法治療技術について </p> <p>実習日誌などで記録と報告を行う。</p> <p>感想文の作成</p> <p>実習後HR</p> <p>実習報告書の作成 実習前レポートをもとに、実施した内容、その結果、課題が残ればその内容などをまとめる。</p>				
	授業方法	実技試験、実習前オリエンテーション、実習、実習後HR			
評価方法	実技試験結果、実習指導者による評価や提出課題などにもとづき行う。				
テキスト	なし				
参考文献					
履修上の 注意事項	9割以上の出席が必要。				